

城南衛生管理組合  
管理者 松村 淳子 殿

2024年度：城南衛生管理組合  
環境マネジメントシステム 外部評価報告書

2024年12月4日  
外部評価員  
芦原昇 吉田康夫  
(文責：芦原)

外部評価実施日 2024年12月3日～4日  
外部評価実施サイト ・クリーン21 長谷山 ・リサイクルセンター長谷山  
・エコ・ポート長谷山 ・EMS事務局  
・本庁施設：移転

【総合評価】

以下の評価により、城南衛生管理組合環境マネジメントシステムは「組織にとって適切であり、運用は妥当であり、意図した目標に対し有効である」と判断します。

【移転審査】

旧本庁管理棟（八幡市）は、2024年7月16日付で新事務所棟（宇治市）に移転されました。新事務所棟における「環境側面の見直し⇒影響評価⇒著しい環境側面の決定」プロセスは、環境側面・影響リストアップ表に基づいて適切に実施（2024年7月16日付）されています。変更点として、設備の追加（ウォーターサーバー）があり、著しい環境側面として追加されています。運用管理については変更ありませんでした。順守義務では、新事務所棟においてエレベーター（京都府福祉のまちづくり条例）が設置されたことにより、建築基準法が追加されています。旧本庁管理棟はすべて施錠され、外部からの侵入を防止しています。使用していた机等の什器備品類は、今後廃棄処分する予定とのことです。以上のとおり、今回の移転については問題なく適切に実施されていました。

【システムの運用】

1. 今回の外部評価は「第7版：2024年7月16日付：城南衛生管理組合環境マネジメントシステム運用マニュアル」（以下、マニュアルと表記）に基づいて実施しました。環境側面の抽出／影響評価から著しい環境側面の決定が行われ、活動の展開（目標・維持管理・中長期計画・緊急事態その他）が行われています。目標の設定及び取組、順守評価、内部監査、緊急事態への準備及び対応等は適切に実施されていました。

## 2. マネジメントレビュー

2024年5月28日にマネジメントレビューが行われています。マネジメントレビューでは、専任副管理者の指示事項(抜粋)として、①構成市町や住民と協同・連携して更なる循環型社会の構築に向けた活動を進めること。②環境目標のうち共通目標については「地球元気プラン」(温室効果ガス削減のための取組)を職員全体で徹底して取り組むこと。さらに新事務所棟では、ノートパソコンの持ち込みによるペーパーレス会議を推進すること。③当組合の2030年度温室効果ガス排出量46%削減について、積極的に取り組むこと等が示されています。

### 〈トップインタビュー〉

- 温室効果ガスの大きな分岐点になる、2050年に向け、世代間で意識格差が感じられるので、高齢者や若い人との世代間交流の取り組みに意欲を見せられている。
- 剪定枝配布事業に加え、剪定枝を炭にして更なる二酸化炭素減少を図る取組についても関心を示されました。
- 廃棄物の焼却と資源化は、相反するものではないとの考え方で、温室効果ガスの削減にとどまらず、更なる資源化に意欲を示されています。

### 【主要項目の評価】

#### 1. 計画：目標の管理

目標の設定には3つの枠組みが示されています。「組織全体の共通目標(省エネ、省資源、ごみ排出)」「安心・安全な施設運営」「各サイトの目標(循環型社会、脱炭素社会の構築をめざす)」があります。

#### 2023年度の目標達成状況

|               |   |     |   |    |     |     |     |
|---------------|---|-----|---|----|-----|-----|-----|
| ・組織全体の共通目標    | ： | 8件  | ⇒ | 達成 | 6件  | 達成率 | 75% |
| ・安心・安全な施設運営目標 | ： | 10件 | ⇒ | 達成 | 6件  | 達成率 | 60% |
| ・循環型社会実現に向けての | ： | 10件 | ⇒ | 達成 | 9件  | 達成率 | 90% |
| 合計            |   | 28件 | ⇒ | 達成 | 21件 | 達成率 | 75% |

#### 2. 法的及びその他要求事項

事務局にて作成された「環境関連法規制登録等一覧」では該当法令及び対象サイトが指定されています。各サイトでは「法的要求事項等一覧兼順守報告」が作成され、要求事項を実施し、記録しています。半期ごとに同報告をEMS事務局に提出し、事務局で確認しています。定期的な見直しは、毎年4月にされています。

#### 3. 内部監査

直近の実施状況 2024年9月17日～9月25日 監査員10名(登録監査員39名)

内部監査チェックシートを使用して、きめ細かな監査を展開しています。

称賛事項：11件、要望事項12件、観察事項11件、不適合0件

審査員は自部門の審査を行わない等、監査における公平性や適切性が認められます。

称賛事項や指摘事項の内容も、抽象的なものが少なくなりました。しかし、まだ抽象的な表現も見受けられます。特に称賛事項は、サイトに勇気を与えると同時に、他のサイトへの水平展開（自分のサイトでも、良いことはまねようとする）の狙いもあります。一方仕組みの有効性に対する監査については、更に研鑽される余地を感じます。教育訓練の内容が、仕組みを担う職員の力量アップにつながっているのか、目標の進捗項目が目標改善につながっているのか、所属目標が本当に組織課題になっているのか・・・等更に監査員としてのスキルを向上させてください。

#### 4. 外部評価結果

##### (ア) 称賛事項

###### ●クリーン21長谷山

- ・研修の有効性が高まっています。
  - ★「専任副管理者の指示事項」と、「環境方針」が確実に研修の中味に加わった。
  - ★要領書が有効に業務に活用されるよう、研修資料を元に、テスト等工夫していることを確認。
- ・事業系一廃という構造上の難しさを、処理工場の立場で展開検査を実施し、成果を上げています。別の視点で見れば、不法な廃プラスチックの混入を防止することが、温室効果ガス削減にもつながります。評価します。
- ・マネジメントシステムの目標数値の置き方は、仕組みの中でも非常に重要な位置を占めるにも関わらず、安直におかれるケースが多く見受けられますが、きっちりと分析し数値目標を設定されています。

###### ●リサイクルセンター長谷山

- ・質問に対する答えが、数値根拠・前年比較等全て明確です。  
目標管理においても、業務課題をシステムに特化されています。  
更に専任副管理者の指示事項や外部評価の課題を、次の活動のステップにされています。
- 非常に質の高いマネジメントシステムになっています。

###### ●エコ・ポート長谷山

- ・所管の変更がありましたが、目標管理や教育訓練など、適切に実施されています。

###### ●EMS事務局

- ・専任副管理者の指示事項や外部評価からの要望に、的確に対応されています。進捗管理状況報告が明確です。
- ・マニュアル（7版）の中味を確認しましたが環境方針、環境目標等、全ての項目において、マニュアルを基本とした活動を確認しました。

## (イ) 要望事項

### ●全体

- ・内部監査の観察事項の中で、文言の漏れや、数字間違いや、印鑑漏れなどの指摘がありました。
- ・中には令和5年度の内部監査でも、同様の指摘をしたのにとのコメントがありました。今は小さなミスですが、大きなひび割れが起こらない間に、再度チェックをお願いします。
- ・2050年CO2ゼロの課題を次世代に先送りすることのないように長期ビジョンで対応をお考えください。（府循環計画の一廃削減目標は、2019比で2030：86千t削減：組合換算12千tであり、現状の計画では不十分で更なる減量が必要）

### ●EMS事務局

- ・運用マニュアル（第7版）における適用範囲について、サイト名のみの記述になっています。サイトの移転や業務内容の変更等もあるので、適用範囲についてはより明確にされるとよいでしょう。例：サイト名：主な業務内容 住所が記述されるとよいでしょう。
- ・「カーボンニュートラル実現に向けたロードマップ表」が作成されています。（例：2023年実績では、2030年目標46%に対し31.6%の進捗状況です。）同表では、部門ごとに2013年基準年度のCO2排出量が記録されていますが、運用期間欄では部門ごとの年度実績が反映されていません。反映されることをお勧めします。

## 「特記事項」

気候変動リスク（気温上昇、気象パターンの変化）」による事業への中長期的な影響を考察し、課題の決定や取組の機会へ展開（計画）されることを推奨します。

ヒアリング事例（クリーン21、リサイクルセンター、エコ・ポート）

- ・共通 気温上昇による熱中症の発症／対策⇒健康被害、作業や機械操作への影響  
冷房設備の稼働アップ⇒CO2排出増加
- ・激甚災害（大雨、台風、地震等）による道路の寸断等  
⇒焼却に必要な薬液等の入手困難（クリーン21）／緊急対策  
⇒仮置き場での発火、腐敗／緊急対策（共通）
- ・クリーン21 廃棄物の変化（原材料の変化）⇒焼却（CO2排出の変化／対策）
- ・リサイクルセンター 気温上昇による労災事故の発生／予防、重機等の操作停止、  
燃焼対象のプラごみの増加（CO2の増加）⇒分別受入の取組
- ・エコ・ポート 飲料容器の増加（ボトルtoボトルリサイクルによるCO2排出の抑制）

以上の事例から「有益な環境側面あるいは候補」が見られます。

気候変動リスクは全部門が考察できる事項です。中長期の動向を考察することで、有益な環境側面のみならず、事業に与える影響の抽出に繋がります。

<参考事例>剪定枝をそのまま使用するより、炭化してバイオ炭の農地利用（J-クレジット）が出来るとCO2排出量が減る。